

平賀源内に学ぶ イノベーターになる方法

出川 通 著

言視舎 (2012年)

四六判 206ページ 定価 (本体1,500円+税)

ISBN : 978-4-905369-42-4



現在、日本ではイノベーションを原動力とする成長に伴った国際社会への貢献が推奨され、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省などからそれらプログラムが立ち上がっている。内閣府では、成長に貢献するイノベーションの創造のための長期的戦略指針であるイノベーション25特命室が設置され、総務省では、ICT産業の変革を視野に入れたイノベーション創出委員会が発足している。また、文部科学省では、専門性および分野ごとに、イノベーション推進プログラム（例：地域イノベーション、革新的イノベーション創出、など）が立ち上げられ、厚生労働省からは、医療に関するイノベーションプログラムが発足している。イノベーションによって日本を成長させるためには、科学技術の振興や研究拠点の充実、くわえて、新事業創造などのさまざまな取り組みが必要である。その中核を担うのは、やはり、イノベーターの育成であろう。複数の大学機関では、すでに、「イノベーション」を学科またはセンターの名前の一部とし、人材育成への取り組みが実施されている。

社会で求められるイノベーターには、目先のニーズに対するモノづくりやその対応、実務的な技術・知識をもつ即戦力としての要素だけではなく、社会の中で自身の能力を活かし、新たな何かを創造する、もしくは、挑戦するための基礎となるモチベーションや意欲などの本質的な要素が必要になると考えられる。つまりは、各人がその専門性を活かし、社会のさまざまな分野で活躍するための人間力がイノベーターに求められる要素であろう。

一方、イノベーションを理解し、イノベーターとしての知識を得ることは、これからの世界の産業界で活躍する上で有用であると考えられている。とくに、日本では次世代の主産業としてサービス産業が注目され、学問としてその分野を創設する取り組みがなされ始めている。これは、日本のサービスシステムや日本文化を象徴する倫理や道徳（おもてなし）などが世界に注目されていることや、サービスに関連する知識と専門性を有するイノベーションを創出する人材育成の需要が高まったことにほかならない。また、

イノベーションは、マーケティングの分野において、新たな商品、製品、サービス、ライフスタイル、システムなどを意味し、イノベーターはそれらを早い段階で受け入れ、応用するヒトのことを指す。さらに、イノベーターを育成するための方法論として、イノベーター理論などが挙げられる。イノベーター理論は、マーケティングをはじめとするさまざまな分野において発展され、その方法論も多種存在するように明瞭に確立されているわけではない。この理論もイノベーションの対象となっているのが現状である。

イノベーターの知識を得ることは重要であることに間違いないが、そのイノベーターの像をもつことは、イノベーターの知識を得るだけに留まらず、その知識の活かし方などの、より深い理解が可能になると思われる。本書では、イノベーターとしても活躍した歴史的人物のうち、平賀源内に着目し、イノベーターとしての像を提示している。

本書は平賀源内の思考や生涯を評論するのではなく、読者らに役立ててもらうために、生き方や仕事を検証している。まず、プロローグでは、題材となる平賀源内の軌跡を記すことで、平賀源内がイノベーターとして要素を所持していたというその人物像を示している。つぎに、第1章では、イノベーターとしての平賀源内とイノベーションとの関わりやその条件の抽出・想定について解説している。本書では、イノベーターの条件として、(1) 理科少年・少女の発想とマインド、(2) 科学者・発見家の発想、(3) 発明者・エンジニアの発想、(4) 起業家・アンテルプルナーの発想、(5) シナリオライター・ネットワークアーの発想、が定義づけられている。いずれの条件もイノベーターとして求められる要素であると推測される。第2~6章では、平賀源内を題材として、それぞれ抽出した条件について解説している。第2章では、理科少年マインドの平賀源内、第3章では、科学者・研究者としての平賀源内、第4章では、技術者・開発者としての平賀源内、第5章では、起業家・事業家としての平賀源内、第6章では、シナリオライターとしての平賀源内を検証している。第2章~6章は独立して読むことも可能な内容となっており、読者の興味・目的に応じて読むことが出来る。第7章では、平賀源内のイノベーターぶりに学ぶことで、自立・自律が新商品開発にどのよう役立つのかを検討している。最後に、エピローグでは、平賀源内の思考・行動が未来の日本社会、会社および個人にいか参考になるかをまとめている。

また本書は、イノベーターの像を想像するための参考書として、適した書籍である。イノベーターを育成する大学機関に従事する教職員、ならびに、これからイノベーターになり得る学生らには、ぜひ一読していただきたいと思う。

(徳島大学 伊藤 伸一)